



サクラサク

— 旅立ちと出会いの春 —



今年もまたサクラが咲き始めました。

正則小のサクラは、いつからそこにあったのか不明ですが、運動場が整備されたころだとすれば、樹齢30～40年でしょうか。枝振りが立派で、咲いたときの姿も見事です。散るときの花吹雪もそれはそれは美しく、登下校の正則の子の肩に花びらをそっと贈っています。

かつて大学入試の合否結果を、電報で知らせるというサービス（有料です!）がありました。私は第1志望が「サクラチル（不合格）」、第2志望が「サクラサク（合格）」でした。合格した大学には、本当にサクラがいっぱい咲いていました。そこで教師になる勉強をして、教員としての人生が始まりました。7校の学校を経て、この正則小にいます。

「サクラサク」という言葉には、春の浮き立つような気分と同時に、慣れ親しんだものの別れの切なさや新しい生活への不安を感じてしまいます。これは、日本の学校が4月始まりで、長年そのサイクルで生活していたからでしょう。1月始まりや9月始まりだったら、また違うものに愛惜をもっていたかもしれません。

卒業式で55名の6年生を送り出しました。4月の入学式では39名の新生を迎えます。職員も何人か入れ替わります。それぞれの旅立ち、それぞれの新生活が、サクラが咲くころに始まります。みんな希望と不安を胸に、それぞれの場所でサクラを見上げることでしょう。願わくば皆が健康で、無事に次のサクラも見られるように。欲を言えば、成長の手応えをもって見上げることができるよう。

今年も来年も、その先もずっと、正則のサクラが、正則小に関わるすべての人を励ますかのように、満開の花を咲かせ続けてくれることを祈っています。

3月末をもって定年退職いたします。3年間お世話になりました。これまでの温かいご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

正則小で過ごした時間は、かけがえのない宝となりました。正則の子や家庭地域の皆様から受けたご恩を、これからの生活の中で少しでもお返ししたいと思っています。

「校長室の窓」には、春のうららかな日差しが注ぎ、外では正則の子が大勢遊んでいます。「正則の子はみんな元気」、どうぞこれからも、元気いっぱいの正則の子と正則小学校を、末永くお見守りください。

本当にありがとうございました。

後東 貴志